

第8回奈良便教会

2016年1月10日（日）

2016年新しい年を迎え、今年初めての便教会の開催になりました。案内が急だったにもかかわらず、たくさんの方が参加してくださいました。毎回思うのは参加して下さる方々がおられるから便教会を進めることができているなあということです。今回もまずその幸せを感じました。

勝手ながら昨年夏以降、一人でトイレ掃除を続けておりました。自分のできる時間に、誰もいないところで、自分に向き合いながら。そのおかげで見えてくるものも、汚れや弱い自分の心、どれだけでも手を抜ける環境の中

で取り組みを続け、それから学ぶこともありました。自分の中で、まず自分が実践を積まなければという思いが強くなっていったからだと思います。しかし、鍵山先生がおっしゃる「一人の100歩より、100人の一歩」にはなりません。

昨年末の自分の勝手な活動をふり返り、今年は「身の周りの人たちに声をかけながら仲良く継続する」を目標に「100人の一歩」を目指していけるようにしていきたいと思います。そこで今回幸せなりスタートになりました。

今回改めて強く感じたのは「見えないところに目を向けること」の大切さです。一見便器もきれいに見えたのですが、尿腰を取ると臭いがありました。尿石もかなりついている状態でした。小便器の流れていく部分が細い形のものなので、なかなかうまくいきません。指がとどかないので、ドライバーやヤスリを使い試行錯誤しながら進んでいきました。やっている中で、ヤスリにサンドメッシュを巻いて磨いておられる方がいました。なぜかと思うと、「直接ヤスリが便器に触れると、傷つけてしまうから」とおっしゃっていました。自分の思いばかりではなく、矢印をいろいろなところに向けて取り組まれている姿勢がすばしかったです。

みなさんが便器を磨かれている後ろ姿は、圧倒されるものがありました。トイレ掃除にかかわらず、教師自らが身を低くし、ひとつのことにむくむくと取り組む姿勢を、子どもたちに見せていくことができると、それに何かを感じる子どもたちが現れ、気づき実践していくのかなあとも思いました。



最後の水を流し拭き上げになったとき、ホースを協力して持ち、自然とされている様子。まさしく「仲良く」、そしてお互いに「気配り」しながら進んでいました。一方、流した後をタオルで拭き始めていく方もおられ、「先を見て、動く」次のことに向かう姿勢も示してくださいました。やっていく中で、気づきを学び合い動かされていました。

拭き上げも最後まで「丁寧さ」が続いた時間でした。水滴ひとつも残らず、壁、床も輝きがありました。またきれいにすることで、見えていなかった汚れが見えてくる。また次につなげていきたいところです。

終わってからは交流をしました。

参加者の感想からも毎回学びがあります。初めての参加の先生は「衝撃の体験」また参加させていただきたいと、次の開催予定まで聞いて下さいました。

掃除の会で参加して下さった松島さんが私たちにメッセージをおっしゃってくださいました。「10年後の日本を支えるのは皆様教師の方々のような気がします。10年後の教育を背負う皆様、続けて下さい」心に残りました。自分自身の目の前のことをまず丁寧に、それが5年後、10年後のつながれば幸せです。

継続していくことで感じる事、これからも周りの方々と共に、ほそく長く実践を積み重ねていきたいと思います。



(世話人：小峠大地)